

安芸府中高等学校生徒が母校の小学校で自作絵本の読み聞かせを行い、 小学生とともに戦争や平和について考えます！

安芸府中高等学校国際科第3学年の児玉 美空(こだま みそら)さんは、小学生のときに絵本「ひばくポンプ」を制作しました。児玉さんは、戦争や平和について多くの人が考えるきっかけとなるよう、これまで府中町やハワイでこの絵本の読み聞かせを行っています。今回は児玉さんの母校である矢賀小学校において小学生に対して読み聞かせを行い、彼らとともに戦争や平和について考えます。

1 日 時 令和8年7月10日(金) 13:30~14:15

2 場 所 広島市立矢賀小学校(広島市東区矢賀二丁目10-67)

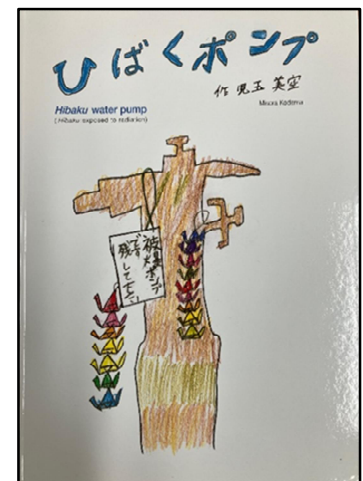
3 対象児童 5・6年生の児童

4 読み聞かせを行うこととなった経緯

広島市立矢賀小学校は、令和7年度から広島市の平和教育推進研究校に指定されています。令和8年度も「平和・発信」をテーマに研究を進めていくこととしており、自作絵本の読み聞かせによって戦争や平和に対する思いを発信している卒業生の児玉さんに読み聞かせの依頼がありました。

5 自作絵本「ひばくポンプ」について

母親が出勤途中で見かけた被爆ポンプの話に、当時小学校4年生であった児玉さんが興味をもち、夏休みの自由研究で被爆ポンプについて調べていく中で、平和活動を行っている永原富明さんと出会い、被爆ポンプが撤去されそうになっていることや、被爆体験を伝える人が減っていることを知りました。このことをきっかけに、児玉さんは、小さな子供が平和や戦争のことについて考えるきっかけとなってほしいという思いから、被爆ポンプを主人公とした話を絵本とすることにしました。



6 これまでの活動

絵本には英訳も付いていることから、ハワイでは英語で読み聞かせを行いました。

・府中町 府中町立図書館主催「読み聞かせグループ交流会」での読み聞かせ

・ハワイ 学校等での読み聞かせ

(メリノール高校[本校姉妹校]、イオラニ高校、CPC[語学学校])

7 その他 取材を希望される場合には、事前に上記担当者まで御連絡ください。